

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 14 日

評価対象事業		評価者	市民安全課	熊澤 隆士
防安-09	実施事業	交通安全対策事業	■ 自治事務	主管課 市民安全課
			□ 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	交通安全意識の高揚

1 事業の目的

対象	市民等
意図	交通環境の改善を図り、関係機関等との連携により、交通安全教育をはじめ各種交通安全対策を推進し、交通事故による死傷者数の減少を図るため。
効果	交通事故の発生件数及び死傷者の減少を図る。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉市の交通安全を推進するため、市内交通関係機関及び団体相互の連絡を密にし、総合的・効果的な交通安全対策を推進し、交通事故防止を図るための各種事業を実施した。 スクールゾーンでの交通安全対策として、カラー舗装等を実施した。 富士見町駅下横断歩道に、交通誘導員を通学時間帯に配置した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		02年度(2020年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等の	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	176,608人	83,058世帯	各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	21,996	23,381	当初予算(千円)	20,152		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他	5		
	一般財源	21,996	23,381	一般財源	20,147		
事業経費運営	人員配置数	2.2	2.2	人員配置数	3.0		
	人件費(千円)	17,221	17,586	人件費(千円)	28,391		
	総事業費(千円)	39,217	40,967	総事業費(千円)	48,543		
	市民1人当りの経費(円)	222	232	市民1人当りの経費(円)	275		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンドで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-負担未導入 △-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
		○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済 協働実施済の場合のパートナー 鎌倉・大船安全協会等
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	市内の交通関係機関・団体等と連携、協力しながら、さらなる効果的な交通安全対策を推進していく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	市内の交通事故発生件数は、年々減少傾向にある。ピーク時の平成12年と比較して半数以下となっており、事業は妥当を考え、「有効性」は3とした。 引き続き、子どもから高齢者までの各世代に応じた交通安全教育の徹底と充実を図るとともに、自転車の安全な利用の促進に関する施策を推進していく。 また、警察、道路管理者、市内交通関係機関等との連携を密にし、総合的且つ効果的なスクールゾーン等の子どもや高齢者を交通事故から守る交通安全対策を推進していく。	

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	①子どもや高齢者の交通安全教育の充実。 ②自転車マナーアップキャンペーン等の自転車利用者に向けた街頭活動や広報。 ③高齢運転者に運転免許証の自主返納の推進。 ④歩行空間の確保を目的として路側帯のカラー舗装化の充実。 ⑤自転車の左側通行を促がす自転車指示標示の拡充。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	①鎌倉、大船警察署と連携し、高齢者向け体験型交通安全教室を実施した。 ①庁内関係課と連携して老人クラブにおいて、夜間の歩行時における安全対策として交通安全啓発物品(夜光反射材)の配付を実施した。 ①園児、小学生、中学生に交通ルールとマナー交通安全教室を実施した。 ②大船警察署及び交通安全協会等と街頭キャンペーンや広報かまくらで自転車ルールやマナーの推進を行った。 ③広報かまくらを活用し、神奈川県警察で実施している高齢者運転免許証自主返納サポート制度について周知を図った。 ④歩行空間の安全確保を図るため、学校からの要望に基づき、通学路における路側帯のカラー舗装化を施工した。 ⑤自転車指示表を鎌倉地区、大船地区の自転車利用者が多い路線に施工した。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・市内の交通事故発生件数は減少傾向にあるが、依然として高齢者が関係する交通事故発生件数が高い割合になっている。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、各種交通安全教育の中止により、交通安全のルールとマナーの周知活動に支障をきたしている。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	平成30年中の交通事故発生件数(上段:交通事故発生件数、下段:人口千人当たり交通事故発生件数)。								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市	
他市実績	506 2.8	1,212 2.8	459 1.9	718 2.8	594 3.1	1,174 3.0	183 3.2	87 2.0	
比較事項	平成30年中の高齢者の交通事故発生件数(上段:交通事故発生件数、下段:人口千人当たり交通事故発生件数)。								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市	
他市実績	186 1.1	443 1.0	179 0.7	255 1.0	238 1.2	493 1.2	85 1.5	36 0.8	
比較事項	平成30年中の二輪車の交通事故発生件数(上段:交通事故発生件数、下段:人口千人当たり交通事故発生件数)。								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市	
他市実績	159 0.9	353 0.8	119 0.5	176 0.7	117 0.6	424 1.1	58 1.0	29 0.7	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	本市の各種交通事故発生件数は、他市と比較する交通事故発生件数が少ないが、令和元年度は不慮の事故で年間の交通事故死者が増加に転じた。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	年間交通事故死者数	単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
平成28年度以降については、「第10次鎌倉市交通安全計画(平成28年度～令和2年度)」の目標値。	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績値	2.0	3.0	1.0	3.0	2.0	4.0
	達成率	—	—	—	—	—	—
指標の内容	高齢者の交通事故発生件数	単位	件	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
高齢者の交通安全意識の高揚を図るため。	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績値	214.0	195.0	226.0	245.0	184.0	186.0
	達成率	—	—	—	—	—	—
指標の内容	二輪車の交通事故発生件数	単位	件	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
二輪車の事故防止の徹底を図るため。	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績値	197.0	179.0	183.0	217.0	175.0	159.0
	達成率	—	—	—	—	—	—

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	人命尊重の理念に基づき、交通事故による死傷者数を限りなくゼロに近づけ、交通事故のない社会の実現を目指す。
-----------------------	--